

塘研究室学会参加・研究発表報告

塘研究室の大学院生4名が、2014年9月14-16日に広島大学（東広島市）で開催された第74回日本昆虫学会大会で研究成果を発表しましたので、その様子を簡単に報告します。

4名全員が学会最終日の16日の発表でした。M2の志賀は「長野県、福島県、山形県の山岳域から発見されたアザミウマ亜科の未記載種の所属(アザミウマ目:アザミウマ科)」, M2の増渕は「福島県と宮城県の河川に生息するヒメシロカゲロウ属の形態的特徴(カゲロウ目:ヒメシロカゲロウ科)」のタイトルでそれぞれ発表しました。二人は分類に関する研究発表でしたので、どちらの発表でも分類形質の評価に関する意見を参加者から頂きました。特に志賀の発表に対しては、祖先形質でまとめられている *Thrips* 属に所属させてしまうよりも、もっと積極的に固有派生形質を探索して(新属の設立も検討して)みてはどうか、との本質的な意見も頂きました。M1の木目澤は「*Thrips* genus-group(アザミウマ目:アザミウマ科)に属するアザミウマ類の分子系統解析」のタイトルで発表しました。彼女が提示した系統関係の信頼性に関わる数値が低いことと関わって、先行研究で扱われている遺伝子座と彼女が使用した遺伝子座との関係や今回の系統樹でまとめられた分類群の共有派生形質の有無などに関する質問がありました。M1の緒勝は「福島県裏磐梯地域におけるオサムシ相」のタイトルで発表しました。発表後に参加者から植生と甲虫相との関わりに関する最近発表された論文を紹介して頂くことができました。

昨年度の札幌での学会で発表経験済みの志賀と増渕はさすがに堂々とした感じでしたが、今回が学会デビューとなった緒勝と木目澤は若干緊張気味でした。それでも他の発表を聴いたり、シンポジウムに参加したりすることを通じて、いろいろと刺激を得ることができたようです。4名の大学院生にとって有意義な学会参加となりました。

